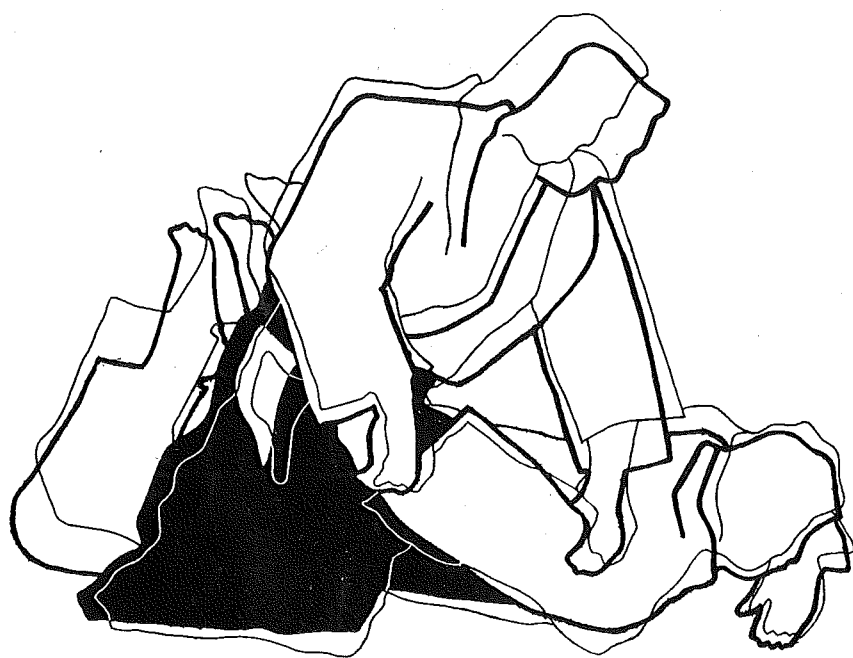


熊本大学合気道部 合気道演武大会



日時 11月10日(日) 開場 PM 1:00 開演 PM 1:30
会場 鶴屋7階ホール 入場無料
招待 万生館本部道場・熊本商科大学合気道部・長崎大学合気道部
福岡大学合気道部・鹿児島大学合気道部・長崎造船大学合気道部
後援 熊本日日新聞社 R K K熊本放送

熊本大学合気道部演武大会

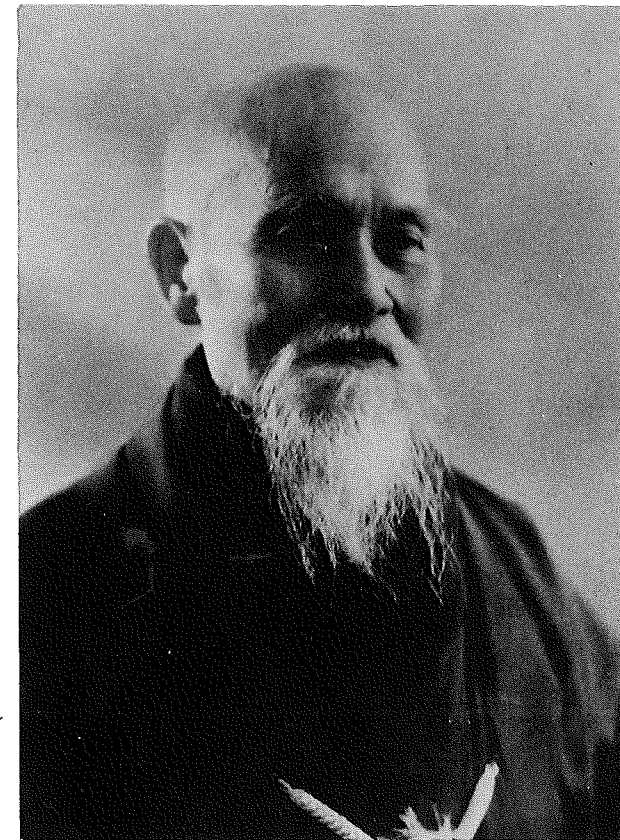
目次

合気道について・編集後記	15	巻頭言	2
「静かなる男の唄」	14	部長挨拶	3
熊本大学合気道部歴代幹部及び部員名	12・13	熊大合気道部演武大会に寄せて	4
第十二代幹部プロフィール	10・11	主将挨拶・現部員一同	5
熊本大学合気道部の年間行事(昭和49年度)	10・11	演武次第	6・7
熊本大学合気道部の歩み	8・9	友情出演、曲目紹介	8
		実行委員長 弘津 一郎	
		部長 長谷 義隆	
		師範 砂泊 誠秀	
		主将 永松 勉	

伊東歯科医院

院長 伊東武嗣

TEL (43) 0377, (44) 0384
黒髪二丁目32-2 (熊大通り)

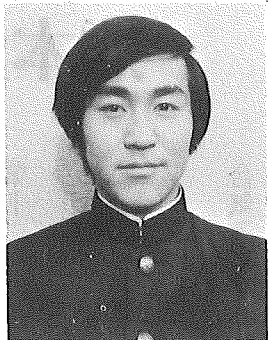


合気道創始者

植芝盛平翁

(1883~1969)

“合気道は万人の進むべき道である。”

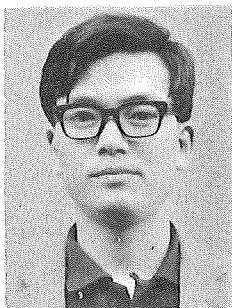


巻頭言

実行委員長 弘津 一郎

本日、熊本大学合気道演武大会を開催するにあたり、砂泊先生をはじめ、諸先輩方々の御支援、御協力に対して部員一同、感謝の念にたえません。合気道は、心身の動きを自然の流れに反することなく、そのまま取り入れようとする武道であります。「合気とは愛なり」という言葉もここから生まれてくるものと思います。現代の社会に無視されつつある自然というものに、今一度取り組んで見ることも、合気道への理解によって可能になるといってもよいと思います。

本日の演武大会も私達の日頃の練習の発表の場と考えて、最大限に努力してきましたが、熊大を中心とした単独演武会でありますので、うまくいかない点も多々あると思いますが、部員一同の努力を最後まで御覧いただききたいと思います。



部長挨拶

熊本大学合気道部部长 長谷 義隆

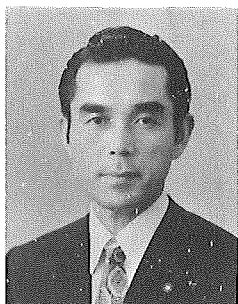
清々しい秋日に熊本大学合気道部演武大会を開催することが出来ましたことは、我々部員一同の限らない喜びであります。部創設以来十二年、漸く土台作りを終え、飛躍すべき時期かと思われれます。当部がこれまでに成長いたしましたのは、偏に、万生館合気道館長砂泊誠秀先生の御指導の賜であり、また先輩諸兄の御努力や皆様方の御支援によるものであります。心から感謝申し上げる次第です。

今日の世界は平和を唱えながら、核兵器等の開発や製造をやめず、人は全て平等であると言いながら、他人より少しでも金持ちになり、贅沢な生活をしたいと望んでいます。その他人間社会はまことに矛盾だらけと言えます。これは矛盾を持った存在である人間が生む必然性であると言えるかも知れません。他の動物や植物にはこのような矛盾はありません。人間には精神生活があるため矛盾が存在すると言えます。しかし我々人間はこの命題を背負いながら、決して矛盾のままで終ってはならないと思います。そこに「心を磨く」ことが必要になります。

言うまでもありませんが武道は本来、己が身を守るために人を倒す闘争の術であります。これは人の精神において人を殺すな、傷つけるなという倫理観とは矛盾することです。

合気道は武道におけるこの矛盾をみごとに昇華させた武道であると言えます。それは、創始者故植芝盛平先生があらゆる武道をきわめてもお求めものが得られずついに「自他共に生きる万有愛護の大精神」に基づく合気道を創出したと聞いているからであり、技そのものが、この大神を昇華させたものであると言えるからであります。

合気道の真髄がいかなるものかは日常の練習により、技を磨き、体を鍛え、精神の向上を図ることを通して知られるものと信じています。熊本大学合気道部は今後も努力を重ねるつもりですが技・精神ともまだまだ未熟であります。関係各位のより一層の御教示をお願いする次第です。この演武会が合気道の普及・発展にわずかでも寄与できますなら、望外の幸いであります。



熊大合気道部演武会に寄せて

万生館合気道館長
熊大合気道部師範

砂 泊 誠 秀

本日ここに、熊本大学合気道部の演武会が行なわれる事は、斯道発展のために大変喜ばしい事であります。

合気道開祖植芝盛平翁は、合気道の精神について、「合気とは愛なり」と言われ、又、「技法は天地の理法を体に移し、霊肉一体の至上境に至るの業であり、道程である」と述べております。

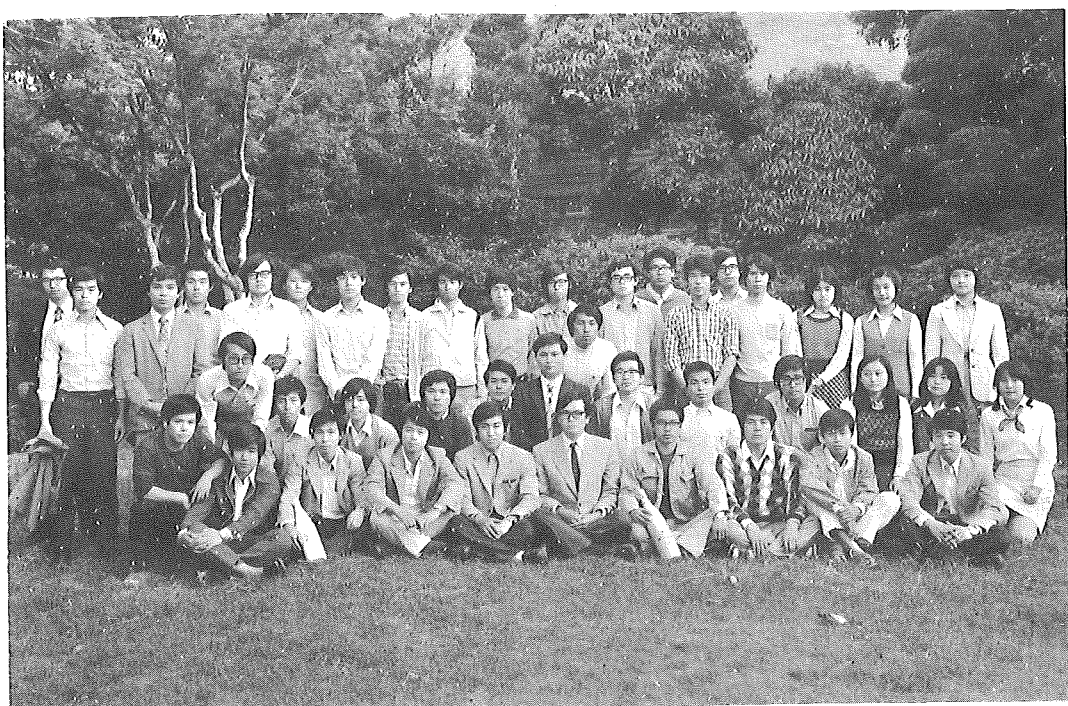
合気道は単なるスポーツではなく、肉体と精神を一致させる、調和への最高の鍛練法であるという事を、言い遺して居られるわけです。武術を、相手を倒す闘争術から脱皮させて、和合の道へと昇華させた開祖は、肉体的にも衆に勝れた力量の持主であった事は、多くの人々が知るところです。力に優れた人が、相手を倒すという、それだけの事が如何に空しい事であるかを悟られて、精神的な修業を重視され、その事に依って、体技を人としての最高の境地である、肉体と精神の一致、すなわち、霊肉一体の至上境への道程としての修業道に高められたという素晴らしさ、こ

れは今の混乱の時代の指針とも言えると思います。

今の時代の混乱、自然破壊、公害、その他諸々の現象は、体的な強さ、すなわち、物質欲だけを追求した結果であり、これは人類滅亡への道につながるものとして、最近徐々に、目覚め始めた状態になって来た様には思いますが。

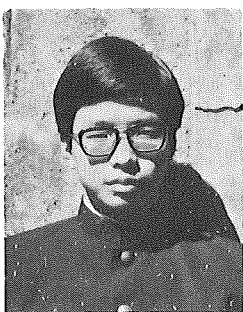
開祖は、武道を通して既にこの事を教えて来られたのです。「武産合気」という名称は、技を通して自他の調和に依って、そこに新しい道（技）を産み出して行くという事であり、相手を倒そうとする闘争術からは「武産」の精神は生まれません。私達はこの偉大なる道を通して、人としての生き方を教えられて居ります。どんなに混乱した時代にも、正しい世界の在り方を知り、それに向って邁進出来る力を与えられているのです。

この演武会が、混濁なる今の社会に、清新な気を送るものとして、大なる意義があると思います。



現部員一同 〈於知命堂 S49. 5. 11〉

主将挨拶



第十二代主将

永松 勉

本日、ここに熊本大学合気道演武大会を開催するに当たり御挨拶申し上げます。

熊大合気道部も創立十二周年を迎え、先輩達が築かれました良き気風と伝統の下に、「合気道」という広遠な「道」を目指し絶ゆまぬ練習を行なっております。我々の未熟な技を以って合気道を御理解頂くのは御無理かと存じますが、熊大合気道部の気迫を込めた演武を通して合気道的一端なりとも御理解下されば幸いです。

最後に、本大会開催に当たり御協力下さいました関係各位の皆様にご心から御礼申し上げます。

式次第

開行委員会
実部長の挨拶
主審長挨拶
部員挨拶
来賓挨拶

演武次第

第一部

(6) 二人掛	(5) 自由技	(4) 二人掛	(3) 掛り稽古(A) 一年	(2) 座技正面打ち 一年	(1) 基本技
内古岡 田瀬 浩郁 一也 (四年)	松田 三治 (四年)	西加藤 裕道 (三年)	柴原 元松 (三年)	永井 繁祐 (三年)	小川 悦子 (三年)
			尾崎 徳木 (三年)	喜司 林 (三年)	野田 一徳 (三年)
					達武彦 (三年)
					卓豊 (三年)
					司秋 豊茂 (三年)

第二部

(16) 熊大合気道部練習風景	(15) 座技突一年 (松岡辰忠也・木佐貫哲良也介)	(14) 三人掛	(13) 杖技	(12) 自由技	(11) 招待演武 鹿児島大学 長崎大学 熊本商科大学	(10) 三人掛	(9) 自由技	(8) 短剣技	(7) 自由技
		橋藤加弘 本田幸博 (二年)	成村昭夫 (三年)	野野和裕 (四年)		西釜橋中 山野正 (二年)	小田康幸 (二年)	段嶋美紀 (三年)	松野達 (三年)

(27) (口) O・B 演武	(26) 剣技	(25) 自由技	(24) 杖技	(23) 自由技	(22) 女子演武 万生館本部道場	(21) 招待演武 福岡大学	(20) 自由技	(19) 自由技	(18) 後技・腰投	(17) 掛り稽古(B) 一年
松三 菊木 佐下 文昭 次夫 (三年)	西弘 津裕一 (二年)	段小 桜下 興昇 (二年)	橋松 本下 幸博 (三年)	加藤 藤田 道雄 (三年)	浜中 田川 雅賢 (三年)	内中 勢島 達朗 (二年)	西山 保正 (二年)	中山 康裕 (二年)	林松 田尾・大菊 田池・小野 田川・永井 (四年)	

説明演武

万生館合気道館長 砂泊誠秀
熊大合気道部師範

一、閉会の辞

《 友情 出 演 》

【曲 目 紹 介】 “つくしの旅”

九州地方の民謡から5つを選んで接続曲として作曲したもので、いわゆる民謡三味線のもつ俗歌的な雰囲気や、箏曲独自の気品のあるスタイルにまとめたものである。

博多どんたくのはなやかさ、黒田節の荘重さ、刈干切唄の哀愁、おてもやんの諧謔味、おはら節の快活さなどの対比の面白さがよく生かされている。

【演奏者】

第一箏	池 辺 直 子(2年)	岩 本 淳 子(2年)	永 田 淑 子(2年)
	江 藤 妙 子(3年)	湯 浅 篤 子(3年)	
第二箏	山 口 直 子(2年)	鹿 田 啓 子(2年)	柳 田 恭 江(2年)
	東 田 好 可(2年)	伊 藤 恵 子(2年)	常 角 幸 恵(2年)
尺 八	小 野 一 郎(3年)	山 根 章(3年)	石 井 正 臣(3年)
	酒 勾 一 敬(3年)		

【熊本大学邦楽同好会紹介】

昭和46年6月服部敏己先輩を中心として会を結成。現在の会員は、尺八が11名、琴が28名あり、尺八は浜田協山先生を、琴は上迫田日呂子先生を師範として熊本大学学生会館二階において、盛んな活動を行っているサークルで、一昨年の我が合気道部の十周年記念演武会でも友情出演をお引き受け頂いております。

熊本大学合気道部の歩み

朽ちくも倒れんとする道場に横たわる古びた青畳も、我が熊大合気道部発足以来十二年間、有りし日の先輩方の姿と接してきたことを想うとき、ある種の威厳となつかしさを喚起するものらしい。

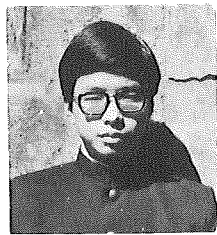
昭和三十七年十月、当時万生館道場で稽古を積んでおられた竹下先輩(当時工・化三年)と上田先輩(当時工・電二年)を中心に、砂泊先生の多大なる御支援と御指導、そして物心両面にわたり御助力下さった小山鷹二郎先生、その他の人々の協力と、これらの人の強固たる志のもとに、我が熊大合気道部は同好会として発足した。その間の多大な苦勞は、簡単には計り知れないものであったろう。上田先輩の原稿によると「数人で工学部宿直室からリヤカーを借り武夫原の当時の体育会部室や柔道場から畳を運んだり城内の医学部寮からトラックで畳を集めて三十枚位の畳が確保されました。皆既成の部で得られない一つの組織を作り上げることに限らない喜びを感じ、友と汗しながら打ち込むことは私からみてもこれぞ全人教育の一環だと思われました」と回想されている。この様にして、工学部講堂において稽古開始に至る。初代主将竹下先輩、続く二代目上田主将の剛毅朴訥、開拓精神旺盛な気概には驚くべきものがあるらしい。それ故か、三十八年には、同好会から部に昇格し、内実ともにクラブの基礎は固まっていた。これら主将は定かではないが、一年半の任期であつたらしく、かつ幹部交代は十二月に行なわれていた。これは四十三年まで続く。上田先輩体育会委員長就任後は実

質上副将の中原先輩が主将の役目をしたらしい。このころの合宿は自衛隊や現合気道場(当時柔道場)で行なわれ、練習時間六時間と記されている。四十年三度三代目主将田中先輩のもとに部員約四十名が、技の修練一筋に努めたいらしい。四十一年度四代目主将高橋先輩の代は、前主将の武道一筋に加え、クラブ活動としての合気道と武道としての合気道を両立させクラブの充実を計る。今ではクラブ行事として欠かすことのできない阿蘇遠歩の提唱者もこの代の幹部であった。またこの代は、準備委員として御努力・御助力なされた横山先輩に引き続き、九州学生合気道連盟の発会、第一回記念演武会の開催に至り、商大他、他大学とともに現在の強固な連盟の基盤をつくる。且つこの年、全国大会にはじめて出場する。四十二年度第五代大島主将の代に第一回連盟機関誌「合気」が発刊され、合同合宿も行なわれる。またこの代において部員数六十余名を数えるに至り、初の女子部員入部、またこのころから新入部員は常に三十余名とふえる。四十三年度六代目主将森脇先輩の代、部員数七十余名にふくれ上るが、熊大闘争の結果、四十四年度とともにぐんと減る。この代に初の熊大合気道部誌が発刊される。聞き伝えによると、豪傑ぞろいの幹部であつたらしく、入身、小手返し、四方投げなど、後輩にとって脅威であつたらしい。これは続く四十四年度第七代主将宮崎先輩、第八代後藤先輩の代も同様である。この年は工学部講堂から、現在の道場へ稽古場を移した年でもある、四十五年度第八代後藤主将の代は聞く耳も新しい幹部であり、その後藤先輩らの人間味あふれる、小柄ながら精鋭な技に誰もが圧倒され、ほめそやす主将だったと伝え聞く。また創設以来お世話になった小山部長先生が岡山大学に転勤される。

四十六年度第九代井上主将の代は、池田、大久保副将とともに、その豪傑さを、そして夏の日田合宿での想い出をいろいろなエピソードとともによく聞かされる。この年の九月には、四十五年卒業後、亡くなられた服部先輩の追悼式及び追悼演武会が、同輩・先輩方の提案のもとに、熊大道場に開かれる。そしてこの時集まった先輩諸氏の意により、OB会の発足となり、規約が設定され、翌年一月には第一回OB会が開かれるに至る。また小山先生以来跡絶えていた部長に、合気道部の先輩である長谷先生に部長となつていただく。四十七年、熊大合気道部発足以来十年を迎え、第十代野中主将とともに幹部一同が、一丸となって奮起された年である。十周年記念演武会が、九月十五日郵貯ホールで開催され、単独演武会でありながら、観客が多かつたことは一つの成功となる。この代は、現幹部が一年の時であり、演武に際しての実行委員長鴻江先輩と当時の幹部の団結は、愛媛大学での夏合宿、続いて行なわれる強化練習のきつさとともに、現幹部への強い教訓となつたことは疑えない。野中主将体育会委員長就任後は副将の佐久間、川筋先輩が技の指導にあたる。四十八年度第十一代小松主将の代は、九州大会熊大主管校となる。この頃から新入部員の数はぐんと減り二十人に満たなくなる。四十九年度第十二代永松主将以下幹部八人、部員数五十名。ボロボロとなつた現道場において歴代先輩の御支援のもとに、技の修練とかつクラブとしての合気道に、よりいっそうの飛躍を求めて稽古に専念する今日である。これらすべて、発足以来十二年間かつ現在において、合気道の精神と技、そして、合気道特有の呼吸法について御教示下さる万生館合気道館長砂泊師範に負うところが大きい。ある。

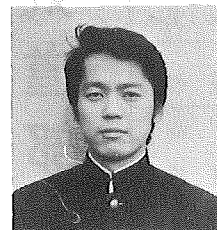
〔記 道場長〕

第十二代幹部プロフィール



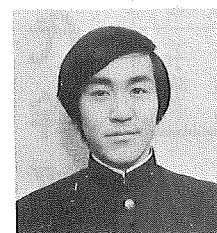
主将 永松 勉 (工学部・資源開発工学科三年)

我が熊大合気道部第12代目の主将を務める彼、その外観から受ける茫洋としたイメージは真にすてがたい味があり、天下の工友寮で鍛えた活力と相まって、部を統率していく上で大いにその威力を発揮しています。転機を迎えている我が部にとって、彼の合気道に対する意欲は心強い限りであります。



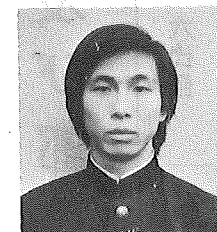
副将 稲田 武彦 (工学部・機械工学科三年)

何をやってもとにかく目立つ存在です。比軽的真面目な現幹部の中にあって綿々と流れる我が部の伝統を守り抜こうと、様々の方面で奮闘しています。その蓄積をふまえて、少しハニカンダ様な、ちょっとニヒルな笑みを浮かべながら、副将の責務を果たさんとトレーニングやランニングの先頭にたって頑張っています。



副将 弘津 一郎 (薬学部・製薬学科三年)

面白いもので演武はその人の素顔を見せてくれます。ところで彼の演武、相手を自分の流れに巻き込む迫力、微動だにせぬ演武姿の決っている事、ヨークわかりますね。薬学部という恵まれた(?)環境にいるせいか、道場での顔に比べて、その笑顔のくずれる事この上なし。とにかく実行委員長御苦労さん!



主務 松下文次 (工学部・電子工学科三年)

幹部になって一番変わったのはおそらく彼でしょう。童顔も何のその今では“鬼の松下”の異名をほしいままにしています。主務という多忙な仕事も彼にかかれば朝メシ前、その抜群のセンスと行動力で部員の信頼を集めています。又彼の演武における受けの華麗さは見事の一言に尽きます。御覧下さい。

熊本大学合気道部の年間行事 (昭和49年度)

春



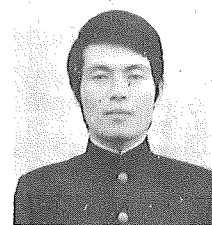
- 〔4月3～10日〕熊大道場で春季合宿、花見もやりました。
- 〔4月27日〕幹部交代、さっそうと永松主将以下9名の第12代幹部が登場。
- 〔5月11日〕新入部員歓迎コンパ、よく飲み、よく走る?
- 〔5月18日〕五大学総体対商大戦、張り切りました。
- 〔5月25日〕市民会館にてダンパ、満員御礼!

夏



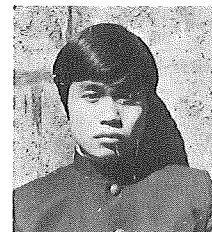
- 〔6月2日〕長崎市公会堂において第9回九州連盟演武会、二年生の初舞台でありました。
- 〔8月21～30日〕宮崎大学で待望の夏合宿。暑さ、膝のすり傷にもめげず頑張る。それにしても思い出すのは平和台公園の階段、大淀川ランニング。宿舍の真栄寺では、毎朝・夕、キーミョームーリョージュニョラ〜イ……。

第十二代幹部プロフィール



副務 内勢 達朗 (工学部・電気工学科三年)

人を外見で判断すると往往にして誤ることがあります。副務というやっかいな仕事にたずさわっている彼もその1人で、そのいかつい容貌に似ず、仕事の細心さ・正確さはこれ以上のものではありません。都城から出て来て三年目、育ちのせいかそのタフな事憎らしい位で、その韋駄天ぶりには合宿のたびにまいってしまいます。



会計 姫野 達雄 (理学部・生物学科三年)

道場に行って部員を見渡します。居ないのかな、もう一度ヨーク見ます。あっ居た居た。そんな静かな静かな彼が今は大切な会計の役目。仕事の上では思いがけず骨っぽいところをみせて皆を驚かせています。“百獣の王ライオン”でさえまいってしまう暖い笑みをいっぱい日々の練習に励んでいます。



道場長 有村 洋子 (教育学部・小学校課程三年)

彼女の仕事、何と驚くなかれ“道場長”。この仕事代々ひとくせもふたくせも有様な男がやってきたはずなのに。変ですね。でもその疑問も演武を御覧になるとすぐに解消します。その威勢のいい事。そうです、彼女は薩摩の女なのです。桜島を想わせる心意気を胸に、女子部員の良きリーダーたらんと体当りの毎日なのです。



OB連絡 田嶋 美紀子 (教育学部・中学校課程三年)

彼女を見ているといかに日々の積み重ねが大切か良くわかります。はいった頃はランニングではいつもビリを走っていたのに、今では我が部でも指折りの切れのいい演武をするまでになりました。その彼女が面倒なOB連絡の仕事を一手に引けうけ、その方でもかなりの成果を上げています。

〔評 O・B〕

熊本大学合気道部の年間行事 (昭和49年度)

秋



- 〔9月21日〕阿蘇遠歩、好天にめぐまれ成功。神山さんも参加。
- 〔9月28日〕万生館において昇段、昇級試験(23名受験)
- 〔10月14日〕試験明け練習開始。
- 〔11月10日〕熊大合気道部演武大会(鶴屋ホール)
- 〔11月17日〕全国大会(京都府立勤労会館)

冬



- 〔12月中旬〕立田山駅伝
- 〔12月下旬〕稽古納め、総会
- 〔1月上旬〕冬季合宿(熊大道場)寒さと眠さに耐えながらも新年の楽しい合宿。
- 〔1月中旬〕追い出し練習・追い出しコンパ、卒業生の皆さま、おツカレ様です。
- 〔3月下旬〕九州連盟合同合宿(熊大道場)。

〔記 副務〕

熊大合気道部歴代幹部及び部員名

役職		主 将									
氏 名		学 部 ・ 科									
初 代		竹下 和秀	富安 健	その他数名	上田 昭夫	中原 健吉	須藤 洋右	長谷 義隆	茂野 忠男	野口 喬弘	三代目
二 代 目		工・土木	工・土木	工・土木	工・電子	工・電子	工・金	工・地	工・金	工・金	三代目
三 代 目		工・土木	工・土木	工・土木	工・電子	工・電子	工・金	工・地	工・金	工・金	三代目
四 代 目		工・土木	工・土木	工・土木	工・電子	工・電子	工・金	工・地	工・金	工・金	三代目
五 代 目		工・土木	工・土木	工・土木	工・電子	工・電子	工・金	工・地	工・金	工・金	三代目
六 代 目		工・土木	工・土木	工・土木	工・電子	工・電子	工・金	工・地	工・金	工・金	三代目
七 代 目		工・土木	工・土木	工・土木	工・電子	工・電子	工・金	工・地	工・金	工・金	三代目
八 代 目		工・土木	工・土木	工・土木	工・電子	工・電子	工・金	工・地	工・金	工・金	三代目
九 代 目		工・土木	工・土木	工・土木	工・電子	工・電子	工・金	工・地	工・金	工・金	三代目
十 代 目		工・土木	工・土木	工・土木	工・電子	工・電子	工・金	工・地	工・金	工・金	三代目

役職		主 将									
氏 名		学 部 ・ 科									
初 代		川筋 修治	佐久間 宏	神山 憲次郎	三成 昭夫	坂田 聖郎	仲野 拓美	鴻江 和洋	松原 英仁	中山 和年	平山 静雄
二 代 目		工・土木	工・土木	工・土木	工・金	工・金	工・金	工・金	工・金	工・金	工・金
三 代 目		工・土木	工・土木	工・土木	工・金	工・金	工・金	工・金	工・金	工・金	工・金
四 代 目		工・土木	工・土木	工・土木	工・金	工・金	工・金	工・金	工・金	工・金	工・金
五 代 目		工・土木	工・土木	工・土木	工・金	工・金	工・金	工・金	工・金	工・金	工・金
六 代 目		工・土木	工・土木	工・土木	工・金	工・金	工・金	工・金	工・金	工・金	工・金
七 代 目		工・土木	工・土木	工・土木	工・金	工・金	工・金	工・金	工・金	工・金	工・金
八 代 目		工・土木	工・土木	工・土木	工・金	工・金	工・金	工・金	工・金	工・金	工・金
九 代 目		工・土木	工・土木	工・土木	工・金	工・金	工・金	工・金	工・金	工・金	工・金
十 代 目		工・土木	工・土木	工・土木	工・金	工・金	工・金	工・金	工・金	工・金	工・金



折詰并当
江戸前
水前寺寿司

熊本水前寺駅前
電話 (66) 1559 番

御宿泊 御宴会 御商談
各クラブコンパに御利用下さい。

旅館 安心荘

TEL 52-2627・53-0973
(熊本北署前から入る)

静かなる男の唄

〈熊大合気道部に捧げる歌〉

作 第九代幹部

げっかのしづくせにうーけてー
おもえーばとおーきこのーみーちのー
わかきわれらのいーきたーかしー
あーあーくまーだいあいーきどーおー

一、月下の雲く背に受けて
思えは遠きこの道の
若き我等の意気高し
ああ熊大合気道

二、酒杯に浮ぶ一夢の
明日の心を誰が知る
今日の激しく燃ゆる身は
ああ熊大合気道

三、武産合気の旗の下
つらい試練のその中に
求めん真理の血と汗の
ああ熊大合気道

合気道について

合気道は、植芝盛平翁に依って創始されたものであります。翁は若い頃から日本古来の各種の武道を修業し、その奥義を究め、更に進んで精神的にも種々難業を重ねた結果、現在の合気道が生まれたのであります。

翁は合気道の精神について「合気とは愛なり、天地の心を以て我が心とし、万有愛護の大精神を以て自己の使命を完遂するこそ武の道であらねばならぬ。合気とは自己に打ち克ち、敵をして戦う心無からしむ、否、敵そのものを無くする絶対的自己完成の道なり。而して武技は天の理法を体に移し、霊肉一体の至上境に至るの業であり、道程である」と申しております。

自然の理法に適った動きの中で、精神的にも、健康的にも心身を向上させ、しかも老若男女を問わざるこれからの武道であります。

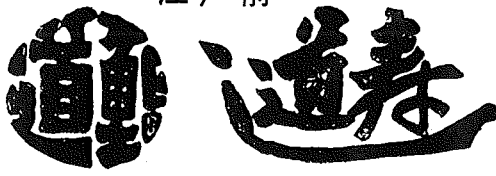
編集後記

我々第十二代幹部が、単独演武会の開催計画を最初、話し合ったのは、まだ冬の寒さ厳しい二月中旬でした。あれから会合を重ね、会場を予約し、部員による開催資金獲得の為のアルバイト、宣伝・広告取りと準備を進め、愈々ここに演武次第が決まり、このパンフレット作成も終了の段に近づけることができました。一昨年の十周年記念演武会の際に続いて、今回も我が熊大合気道部の歩みを詳しく載せようと試み、経過の大略はかなり掘めたものの、詳細な活動については不十分です。一人でも多くの先輩方が、記憶が薄れてしまわないうちに、合気道部に在籍されていた当時の様子を、書いて送って下さると後続の為にも幸いに思います。もう十二年になるのです。どれ程多くの苦しい事、楽しい事、哀しい事、嬉しい事、思い出に残る事等、輝やかしく・素晴らしい青春の出来事が展開されたことか。願わくば、それ等の一つでも多くの出来事が去り行く年月の中に埋没せず、便りに乗って熊大道場に届き、記録に残らんことを！

この演武会の為に、資金援助・激励を頂いた先輩方、御厚い後援をお引き受け頂いた各社、編集に際し、忙しい中原稿を御執筆下さいました方々、そして広告をお寄せ頂きました皆様に対して心から感謝申し上げます。

編集者一同

発行日 昭和四十九年十一月十日
発行所 熊本大学合気道部
(〒860) 熊本市黒髪熊大体育会内
編集責任者 内勢達朗
印刷 かもめ印刷 (☎六四一〇二九二)

お友達との語らいに…… ニュー も ん くまもと、銀杏通反後ビル内 TEL 53-6758	若い世代の PHOTO STUDIO おかむら写真館 熊本市水前寺3丁目11-16 TEL 62-0579
小さな応接間としてご利用下さい スナック はにわ  くまもとしもとおり 鯛仙横 うえだビル Tel 52-9288	酒・タバコ・食料品 吉田ストアー 熊大横（黒髪5丁目） TEL 43-9717
 (有)吉村コンタクトレンズ 熊本市水道町（交叉点西角）吉村眼科隣り ☎54-7700	江戸前  黒髪5丁目19-8 TEL 43-9444
国際観光旅館 丸 小 旅 館 熊本市上通町11番10号 TEL 53-1241	

ラーメン専門店 黄 河 熊大通り吉田湯前 TEL (44) 0428	欧風洋菓子 & フレッシュベーカーリー  パピア 子飼商店街 TEL 43-4424
コーヒー&スナック <i>chateale</i> シャトレ 黒髪2丁目（熊大通り） TEL 43-0114	最高検眼施設の店 *学割あり* メガネはふじ美 子飼交差点 TEL 43-6666
日本の金だ世界のマーク SONY® ソニー専門店 ソニック・オクムラ 下通店 大東ビル(山小屋前) でんわ 53-0643 天神店 味噌天神電停前 でんわ 66-0031	武藤コンタクト 市内子飼本町1-18 TEL <0963> 43-3510 武藤眼科医院ビル内
新薬から漢方薬まで 有限会社 矢仁田薬局 黒髪六丁目26-27	外科・整形外科 稲留外科医院 黒髪5丁目4-48 TEL 43-9034

ニュー・ル・サ・イ・ア・モ・ン・ド

かもめのシロナサン jonathan livingston

Seagull

the original sound track recording



歌と音のムードメーカー

マツフジ

MATSU FUJI

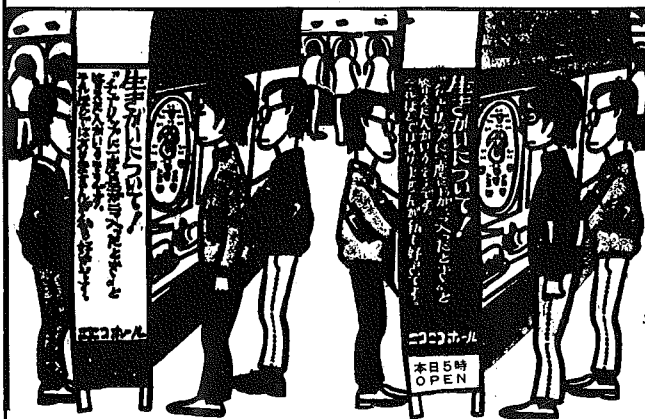
銀座通店 4F レコードコーナー

梅木皮膚科医院

院長 梅木昇次

熊本市子飼本町 6-21

TEL 43-8031



チン
ジャラ
ジャラ
ジャラ
ジャラ
ジャラ
ジャラ
ジャラ

下通ニコニコビル1F
TEL (56) 2525

パチンコの殿堂
ニコニコ
ホール

こころ豊かに ふれあいの街

お買物は鶴屋の優秀品



郷土のデパート

熊本

鶴屋

電話大代表 56 2111
外 商 部 56 2220

お車でのお買物は立体駐車場 (270台収容) 地下2階駐車場 (100台収容) をご利用下さいませ。